

今週（8月7日から8月11日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、7日のTB3M発行超過と10Y物価連動発行、10日の30Y発行以外に主だった財政等要因は無かったものの、来週15日に積み最終日を控えていることから、着地に向けた調整の結果として、無担保コールO/N加重平均レートが徐々に切り上がる展開となった。10日は山の日を挟む4日積みとなることから更に強含み、▲0.035～▲0.020%のレンジに取引が集中した。一方で、レートの上昇を受けてマクロ加算残高との裁定の利鞘が薄くなったこともあり、調達を見合わせる先も散見された。

ターム物に関しては引き続き▲0.05%での調達意欲が見られたものの、オファーサイドの目先は年金定時払い後となる新しい積み期間からのスタート▲0.04～▲0.03%に移行していることもあって、証券業態におけるロール案件及び積み期内のショートタームが中心となった。

固定金利方式の共通担保オペは9日に2W物8,000億円でオファーされ、落札額は1,530億円（期日分1,480億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.080～▲0.070%前後で推移した。週初7日のS/Nは、▲0.080～▲0.075%程度の出合い。短国6Mの発行日かつ4日積みの取引となる8日のS/Nは、投資家による資金調達が若干ながら積極化し、▲0.070%程度までレートが上昇した。短国3M発行日の取引となる9日のS/Nも、前日とほぼ同水準で推移した。積み最終日の取引となる10日のS/Nは、投資家の資金調達ニーズが減少し、▲0.075%程度までレートが低下した。

SCIは個別銘柄では2y374～378、5y125～132、10y333～347、20y154～161、30y50～55、40y9～10等、カレント近辺に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、2本の入札を控えて様子見で始まったが、海外勢を含めたロールニーズもあってか全般的に堅調な推移となった。

新発の入札は8日に6M物、9日に3M物が実施された。短国買入オペ減額の警戒感からレート上昇が予想される中、ともに順調な入札となった。6M物の入札は、WI取引で▲0.115%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.115%、按分落札利回▲0.1131%と概ね事前予想通りの堅調な結果となった。3M物の入札は、WI取引で▲0.112～▲0.110%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1110%、按分落札利回▲0.1082%とこちらも事前予想通りの結果となった。週末にかけては、米朝間の緊張の高まりから株安債券高となり、堅調な展開となった。

10日に市場予想通りの7,500億円で実施された短国買入オペは、平均落札利回較差▲0.002%、按分落札利回較差▲0.004%と直前の堅調なマーケットを反映し、こじっかりの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、事業法人の夏季休暇を控え、前倒し気味に発行する動きが見られた。入札ベースの週間償還総額4,600億円程度に対し、幅広い業態（鉄鋼・石油・機械・ゴム製品・商社・ノンバンク等）から大型の発行案件が見られ、週間発行総額は6,600億円程度に膨らんだ。市場残高は16兆円台での推移となった。発行レートは、引き続き0%近辺の取引が中心となったが、一部の9月末越え物ではマイナスが若干深目となった取引も散見された。8日にはCP等買入オペが、オファー額3,000億円で実施され、平均落札レート▲0.001%、按分落札レート▲0.005%となった。オファー額が前回から500億円減少したものの、ディーラーの売却ニーズが弱く、前回比（平均0.003%、按分▲0.002%）でレートが低下する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
8/7（月）	20,055.89	0.065	110.75	△ 0.049	△ 0.076	3,566,400
8/8（火）	19,996.01	0.065	110.75	△ 0.042	△ 0.076	3,581,800
8/9（水）	19,738.71	0.055	109.90	△ 0.033	△ 0.075	3,576,600
8/10（木）	19,729.74	0.055	110.00	△ 0.028	△ 0.075	3,572,000
8/11（金）						

来週（8月14日から8月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
8/14 (月)	4-6月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)			
8/15 (火)				7月の米小売売上高 6月の米企業在庫 7月の英消費者物価指数
8/16 (水)		TB1Y 23,000億円 8/21発行	国有林野借入 951億円 8/25借入	7月の米住宅着工件数 4-6月期のユーロ圏GDP2次速報
8/17 (木)	7月の貿易統計(財務省 8:50)	TB3M 44,000億円 8/21発行	5Y 22,000億円 8/21発行	7月の米鉱工業生産・設備稼働率 7月のユーロ圏消費者物価指数改定値
8/18 (金)	6月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	交付税借入 10,500億円 8/28借入		8月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/14 (月)	700	▲ 7,500	▲ 6,800	全店共通 CP買入 国債買入	▲ 1,500 ▲ 400	1,500 3,000 8,100	10,700	3,900	TB3M発行▲44000償還38800 交付税借入▲10500期日10500
8/15 (火)	0	53,000	53,000	国債買入 短国買入		7,400 7,500	14,900	67,900	源泉所得税揚げ 社会保障費 年金定時払い TB2M発行中止 2Y発行▲22000償還7700 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3500 個人向け3Y償還300
8/16 (水)	0	1,000	1,000				0	1,000	
8/17 (木)	▲ 1,000	0	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
8/18 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
週間合計	▲ 1,300	48,500	47,200	—	▲ 1,900	27,500	25,600	72,800	

8/14は日銀予想、8/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日に年金定時払いに伴う大幅余剰日が予想される。積み最終日に向けた展開と、16日以降の新しい積み期間からの取引動向が注目される。

レポ市場は、新しい積み期が始まり、引続き投資家の動向次第ではあるものの、▲0.100～▲0.070%程度での推移になると予想する。

短国市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札が予定されている。引続き横ばい圏での堅調な推移が予想されるが、海外勢の動向次第では、レートが若干上昇する可能性も考えられる。

CP市場は、16日と17日の入札を中心に発行の増加が見込まれる。また、17日にはCP等買入オペが実施予定となっており、落札結果が注目される。

主要なイベントとしては、14日の4-6月期のGDP1次速報、15日の7月の英国CPI、16日のユーロ圏GDP2次速報、などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまふようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録書等をよくお読みください。